

ことばの手引き

はじめる人も、続ける人も / 俳句ナビ

俳句には、はじめて見る言葉がいくつか出てきます。言い換えずに、そのまま覚えてしまうのが近道です。句会に持って行って、分からない言葉が出たら聞いてください。

結社 けっしゃ

俳句を続けるための会。主宰がいて、結社誌を出す。全国に数百あり、規模は数十人から千人を超えるものまでさまざま。

主宰 しゅさい

結社を主宰する人。句を選び、添削する。「先生」と呼ばれることが多い。

結社誌 けっしゃし

結社が毎月出す冊子。会員の句が載る。自分の句が活字になるのは、続ける励みになる。

句会 くかい

句を持ちよって読み合う集まり。月に一度が多い。上手い下手を競う場ではない。

兼題 けんだい

あらかじめ決められた季語や題。「次回の兼題は『新樹』です」のように事前に知らされる。

当季雑詠 とうきざつえい

題を決めず、その季節の句を自由に詠むこと。兼題と併せて出す会が多い。

投句 とうく

つくった句を出すこと。句会では短冊や投句用紙に書いて出す。

清記 せいき

集めた句を、別の人が書き写すこと。筆跡で誰の句か分からないようにするため。

互選 ごせん

名前を伏せたまま、参加者が互いに句を選ぶこと。誰の句かは選り終わってから明かされる。

特選 とくせん

選んだ句のなかで、とくに良いとしたもの。秀逸・入選・佳作と続く。会によって呼び方は違う。

披講 ひこう

選ばれた句を読み上げること。自分の句が読まれたら、俳号を名乗る。

俳号 はいごう

俳句でつかう名前。自分でつける。本名のままでよい。

季語 きご

季節をあらわす、決められた言葉。衣がえ、夕立、金木犀、こたつ。暮らしの言葉がそのまま季語になる。

歳時記 さいじき

季語を春・夏・秋・冬・新年に分けて集めた本。一冊持っておくと心強い。

吟行 ぎんこう

句をつくるために、みんなで出かけること。その場で見たものを詠む。